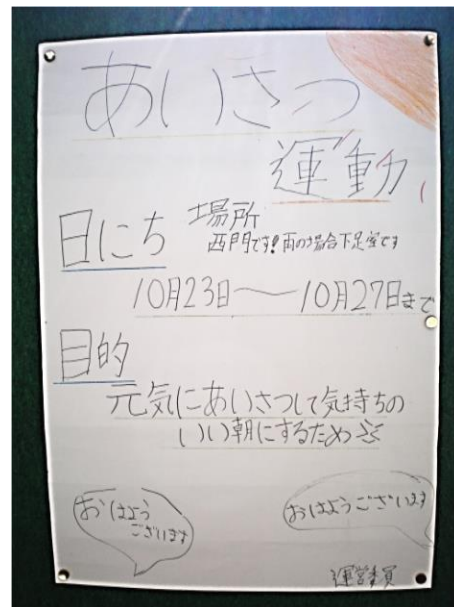


(家庭数配布)



あいさつ運動をやっています！



おはようございま〜す！

今週は、児童会運営委員のメンバーが「あいさつ運動」をやっています。朝、校門に立ち、登校してくる子どもたちに「おはようございま〜す。」と元気に呼びかけるのです。この運

動、「運営委員として何かできないかな？」との担当の先生からの提案に、子どもたち自身から「こんなことをやってみたい！」と意見が出たそうです。素晴らしいですね。

知っている子も知らない子も、「おはようございま〜す。」のあいさつが自然に交わされる、そんな学校にしていきたいと思います！

◇性教育講演会（4年生）を行いました。

24日（火）、4年生を対象として、とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」の方にお越しいただき、「他の動物と違い、人間の赤ちゃんには誰かのお世話が必要」「プライベートゾーン」「第二次性徴」などから、「わたしもあなたも大切」をテーマにお話をいただきました。なお、今回は、参加を希望される4年生の保護者の皆様にもお越しいただきましたが、事後のアンケートを拝見すると、「性教育と言っても、

何をいつ、どう教えて良いのか分からない。」というご意見が多く、各ご家庭でも悩まれていることが伺えました。小学校高学年からはいわゆる思春期に入ります。今後も、このような悩みの解決に少しでもお手伝いができるよう、学校としても取り組みを進めて参りたいと思います。

◇校長のつぶやきコーナー

前号で「粗さがし」について述べました。そして「自分に自信がないから、他人の粗さがしをしてしまう。」「他人の粗さがしをするより、自分自身に力を。」とまとめました。これを見たある職員から次のような提案がありました。「粗さがしのことだけではなく、『リフレーミング』についても触れてみてはどうでしょうか？」と。（この学校だより、基本としては私が内容を考えますが、時々職員の意見も取り入れるようにしています。）リフレーミングとは、「物事の捉え方を変え、違う視点から見る。欠点や不安といったネガティブな情報も、考え方を変える。」という意味です。このようにすることで、円滑な人間関係を築くことができるという効果が期待できます。例を挙げてみましょう。

「あきらめが悪い」⇒「粘り強い」	「あわてんぼう」⇒「行動が早い」
「いい加減」⇒「おおらか」	「頑固である」⇒「信念がある」
「ぐずぐずしている」⇒「念入りである」	「すぐカッとなる」⇒「情熱的」
「引っ込み思案」⇒「慎重かつ丁寧」	「マイペース」⇒「自分の世界を持つ」
「優柔不断」⇒「他人の意見を尊重する」	「馴れ馴れしい」⇒「人懐っこい」

等々

このようにいくらでも挙げられます。

他人の行動や目の前の事象を、自分の力で変えられることができるのであれば、それはそれで良いと思います。でも、どうしようもないこともありますよね。であるならば、自分の見方を変えるしかありません。前にも述べたように思いますが、「自分がいちばんコントロールしやすい人間は自分自身であるはず。でも、その自分をコントロールできている人は滅多にいない。ましてや、別人格である他人をコントロールしようとするなど、難しいのは当たり前。」です。さらに、もし自分をコントロールできていたとしても、その上で、他人への見方や捉え方も変えることができれば、より幸せに生きれるはずです。同じ生きるなら、幸せに生きたいのは誰もが同じでしょう。

「リフレーミング」、心がけても良いのではないのでしょうか。（私も頑張りたいと思います。）